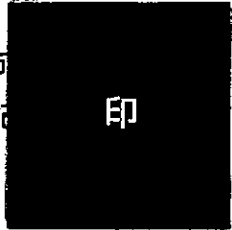




大市大病 284 号
平成 22 年 9 月 28 日

近畿厚生局長 殿

公立大学法人大阪市
開設者名 西澤 良記



大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	198 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	401 人	120 人	521.0 人	看護補助者	41 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	7 人	臨床検査技師	52 人
薬剤師	37 人	11.6 人	48.6 人	作業療法士	3 人	臨床衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	2 人	その他	人
助産師	29 人	1.8 人	30.8 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧	人
看護師	793 人	69.1 人	862.1 人	臨床工学技士	8 人	医療社会事業従事者	人
准看護師	2 人	6.8 人	8.8 人	栄養士	人	その他の技術員	3 人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	47 人
管理栄養士	9 人	0.9 人	9.9 人	診療放射線技師	44 人	その他の職員	38 人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	774.4 人	一人	774.4 人
1日当たり平均外来患者数	2,119.0 人	一人	2,119.0 人
1日当たり平均調剤数		1,308.70 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る)	13 人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	2 人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	0 人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	2 人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	0 人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	11 人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はピオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	0 人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	2 人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	5 人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)	0 人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	82 人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	73 人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	0 人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	0 人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	リンパ球阻害療法による難治性抗原病の治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ステロイド及び免疫抑制薬抵抗性の膠原病、じゅうらいの治療が禁忌のため治療方のない膠原病についてリツキマシブ250mgを週1回で4回の点滴を投与する。			
医療技術名	再発性副甲状腺機能亢進症に対するCinacalcetHClによる治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 副甲状腺機能亢進症治療として副甲状腺摘出術を施行された患者で、副甲状腺機能亢進症を再発し、追加の副甲状腺摘出術が困難または臨床的に無効であると診断された患者についてCinacalcetHCl(レグパラ)を経口投与することで、副甲状腺ホルモン(PTH)を低下させ、骨粗鬆症化の抑制、腎機能低下の抑制を図り、予後の改善を目指す。			
医療技術名	サンドスタチン(オクトレオチド)の筋肉注射・皮下注射	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 特発性偽性腸閉塞に伴う腹部症状について、サンドスタチン50 μ gを6時間おきに皮下注射、またはサンドスタチンLAR20mgもしくは30mgを1ヶ月に1回筋肉注射をすることにより、腹部症状が改善し経口摂取が可能になったという報告がある。			
医療技術名	原発性腸リンパ管拡張症による蛋白漏出性胃腸症に対するヘパリン療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 蛋白漏出性胃腸症による低蛋白血症について、カプロシン(ヘパリンカルシウム)1日5000単位0.2ml/回を2回皮下注射を行う。			
医療技術名	クローン病以外の炎症性腸疾患に対するレミケード(インフリキシマブ)の使用	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 クローン病以外の炎症性腸疾患(ベーチェット病、潰瘍性大腸炎)について、レミケード5mg/kg/回を0, 2, 6週に投与(点滴)有効であれば8週間隔で維持投与することにより改善が期待できる。			
医療技術名	ヘリコバクター・ピロリ一次及び二次除菌療法不成功例に対する三次除菌療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃・十二指腸潰瘍と診断され、一次及び二次除菌療法を受けたにもかかわらず除菌不成功と判断された症例にパリエット10mg・サワシリン750mg・クレビット300mgを1日2回10日間服用する。			
医療技術名	多剤耐性B型肝炎ウイルスに対するテノフォビル投与の試み	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 現在保険適応である薬剤に耐性を示すB型肝炎ウイルス感染例を対象とし、ピリアード1錠を1日1回1年間継続服用をする。			
医療技術名	胆嚢および膵臓腫瘍に対するソナゾイド造影超音波の試み	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胆のう腫瘍及び膵臓腫瘍の病変に対してペルフルブタンマイクロバブルとして16 μ L(1バialル)を添付の注射用水2mlで懸濁し、通常成人1回、懸濁液として0.015mlを静脈内投与する。			
医療技術名	びまん性肝疾患におけるソナゾイド造影超音波での肝血流およびクッパー機能評価の試み	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 びまん性肝疾患に対してペルフルブタンマイクロバブルとして16 μ L(1バialル)を添付の注射用水2mlで懸濁し、通常成人1回、懸濁液として0.015mlを静脈内投与する。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、手術前日あるいは手術当日午前中に、RI室で病巣周囲を4分割した部位にTc製剤1mCiを皮下注射する。RI室にてガンマカメラで撮影し集積を認めた部位にマーキングを行う。 手術室においては、ガンマプローブを用いて集積部分を同定。パテントブルーバイオレット2.5%1mlを併用して、センチネルリンパ節の摘出を行う。			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 高齢による低肺機能や過去の開胸術による癒着などで、外科的切除が困難な肺癌症例を対象とする、病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。			

医療技術名	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>既存の治療方による制御が困難な悪性の骨腫瘍、または類骨骨腫瘍症例を対象とし、体積減少や疼痛軽減による症状の緩和を目指す治療法である。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し、標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針は抜去し手技は終了する。CTガイド(またはナビゲーションシステム)で観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度である。</p>			
医療技術名	腫瘍性骨病変および骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>悪性腫瘍の転移や骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折のため疼痛が強度で、日常生活に支障をきたしている症例を対象に疼痛緩和によるQOLの改善を目的に施行する。</p> <p>局所麻酔後、CTやX線透視でモニターしながら経皮的に骨生検針を骨折した脊椎椎体に刺入する、次いで少量(1-10ml程度)の骨セメントを注入し、適度な広がりになったことを画像で確認後、針を抜去して手技を終了する。</p> <p>治療に要する時間は1時間程度である。また、入院期間はおおよそ1週間である。</p>			
医療技術名	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>腎機能温存や他疾患合併等で、外科的切除術が困難な悪性の腎腫瘍症例を対象とする。病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。</p>			
医療技術名	軟部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>侵襲の大きい外科的切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする、患者選択に際しては、当該外科と協議して決定する。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。</p>			
医療技術名	副甲状腺機能亢進症に対する放射線同位元素を用いたナビゲーション手術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>副甲状腺機能亢進症(再発性・持続性・異所性を含む)</p> <p>術前検査にて放射性同位元素(RI:99mTc-MIBI)の集積が確認された病巣を切除・摘出する際、</p> <p>執刀2時間前にRIを投与し、術中ガイガーカウンターを用いて病巣を検索する。切除、摘出後に放射線活性の消失を確認する。</p>			
医療技術名	切除不能大腸悪性狭窄に対するステント留置術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>切除不能大腸悪性疾患により腸閉塞症状を呈する状態について、大腸内視鏡下、透視下に狭窄部を確認してステントを留置する。従来このような状態の症例に対しては人工肛門造設が必要であったが本手技については非侵襲的に自然排便が可能となる。</p>			
医療技術名	肝腫瘍に対する肝動脈塞栓術の補助療法としての肝ラッピング術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝周囲組織より栄養動脈が発達した肝細胞癌症例</p> <p>全身麻酔を施行し、開腹下あるいは腹腔鏡視下に肝腫瘍と周囲臓器を剥離し、栄養動脈を遮断、さらに同部にゴアテックスシートを留置することにより周囲臓器からの腫瘍への血管新生を遮断する。</p>			
医療技術名	経皮経肝門脈枝塞栓術	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>葉切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌</p> <p>血管造影室において、局所麻酔下超音波ガイド下に肝内門脈枝を穿刺し、門脈本幹内にカテーテルを挿入して直接門造影を行う。切除予定領域に流入する門脈枝を確認した後、同門脈枝内にバルーンカテーテルを挿入し、フィブリン糊を注入して同門脈を塞栓する。塞栓当日はベッド上安静とするが翌日から歩行や食事は再開する。この塞栓術から約2週間後、腹部CTなどにより充分な切除予定領域(塞栓領域)の萎縮と残存予定領域(非塞栓領域)の再生肥大が惹起されていることを確認した後、予定された肝切除を行う。</p>			
医療技術名	頭蓋内頸動脈および椎骨動脈病変に対するステントを用いた血管形成術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>頭蓋内頸動脈及び椎骨動脈狭窄病変で外科的治療が困難であると思われる症例についてバルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術にステント留置を併用する。</p>			

医療技術名	蝶形骨誘導電極留置術	取扱患者数	22人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性てんかん</p> <p>局所麻酔下に経皮的に両側側頭下窩(骨下)に蝶形骨誘導電極を挿入した上で頭皮脳波を測定しててんかん焦点診断を行う。</p>			
医療技術名	腎移植領域におけるリツキシマブの応用	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例</p> <p>3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例</p> <p>1) 2) 3) の場合、移植2週間前と移植当日にリツキシマブ150mg/m²を点滴静注</p> <p>4) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して150mg/m²を単回投与する。</p>			
医療技術名	腎移植領域における5回以上のplasmapheresis	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例</p> <p>3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例</p> <p>腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4-6回必要となることがある。</p>			
医療技術名	腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>1) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例</p> <p>2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例</p> <p>1) 2) の場合、移植前に0.1~0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与</p> <p>3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する</p>			
医療技術名	一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る)に係るものに限る)	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>双胎間輸血症候群</p> <p>双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠(妊娠十六週以上二十六週以下のものに限る。)</p> <p>双胎間輸血症候群は、一絨毛膜性双胎妊娠において、胎盤表面の双胎間血管吻合を介して一方の児(供血児)から他方(受血児)へと血流がシフトすることにより、羊水過小・羊水過多を生じるもので、供血児・受血児とも死亡率が高くなり、中枢神経障害を残す率も高い。これに対し、胎盤表面の吻合血管を内視鏡により同定し、レーザー光により焼灼して凝固させ、児の予後を改善させる。</p>			
医療技術名	アバスチン硝子体内注射	取扱患者数	50人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の諸症状について</p> <p>手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にてアバスチン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。アバスチン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバスチン点滴静注用4mlから約20本、硝子体内用の注射液を作成することができる。</p>			
医療技術名	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る)	取扱患者数	11人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>白内障</p> <p>手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にて超音波乳化吸引術を施行し、多焦点眼内レンズを挿入する。</p>			
医療技術名	組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA)網膜下注射	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤</p> <p>手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。</p>			

医療技術名	免疫担当細胞解析法による同種血幹細胞移植後の移植片対宿主病等の診断と免疫抑制剤の調節	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>同種造血幹細胞移植施行症例</p> <p>「末梢血中免疫担当細胞8種類の同定」</p> <p>同種造血幹細胞移植後、定期的に(移植後14日、30日、60日、90日、その他必要に応じて)末梢血約30mlを採取して単核球分離後、8種類の免疫担当細胞(CD4・CD8・Th2・Treg・gdT・DC1・DC2)をフローサイトメーターで同定する。各免疫担当細胞の比率を詳細に解析することで移植片対宿主病その他の移植後重篤合併症の早期診断と鑑別を行い免疫抑制剤の増減調整の指標となる。</p>			
医療技術名	同種血幹細胞移植後の急性GVHDの初期治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性の検索	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>急性移植片対宿主病 (GVHD)</p> <p>造血器疾患に対して、同種造血幹細胞移植を受け、grade II以上の急性GVHDを発症した患者。組織学的あるいは臨床症状よりgrade II以上の急性GVHDが発症したと診断された後、セルセプト1.5g/日(体重40kg以上60kg未満の患者)あるいは2.0g/日(体重60kg以上80kg未満の患者)の内服を開始する。一日投与量を12時間ごとに内服する。</p>			
医療技術名	ガンシクロビル抵抗性サイトメガロウイルス感染症に対するホスカルナットの有効性の検討	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>ガンシクロビル(デノシン)に抵抗性の、同種移植後患者でのサイトメガロウイルス感染症</p> <p>ガンシクロビルの治療によっても改善しない、サイトメガロウイルス感染症患者に対して、ホスカルネットナトリウム水和物として1回体重1kgあたり90mgを2時間以上かけて1日1回点滴静注する</p>			
医療技術名	骨髄異形成症候群(MDS)に伴う治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病(治療抵抗性ITP)に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病</p> <p>外来および入院にてリツキシマブ375mg/m² 点滴静注 週に1回投与 4週間 計4回行う。</p>			
医療技術名	CIDPに対する免疫抑制剤(ネオーラル)を用いた治療	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>CIDP(Chronic inflamartory demyelinating polyradiculoneuropathy) 通常の治療に反応の乏しい患者</p> <p>ネオーラル50mg・10mgを1年間、病棟及び外来で内服もしくは点滴</p>			
医療技術名	PIBを用いたアルツハイマー病の早期診断	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>アルツハイマー病</p> <p>PET検査室にて施行(PIB合成費)</p>			
医療技術名	重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤・抗生物質持続動注療法	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>発症後1週間以内で、造影CTで膵壊死を認める患者や特に重症な患者(厚生労働省基準の重症度スコア9点以上等)</p> <p>投与方法:膵壊死部を灌流する動脈から持続動注</p> <p>投与量 :フサン(50mg/バイアル)を1日4バイアル、11時間ずつ2回持続投与</p> <p>およびチェナム(500mg/バイアル)を1日2~4バイアル、1時間ずつ2回持続投与 投与期間:約5日間</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	92人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	46人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	45人	・原発性胆汁性肝硬変	95人
・全身性エリテマトーデス	271人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	75人
・再生不良性貧血	68人	・混合性結合組織病	34人
・サルコイドーシス	65人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	7人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	142人	・網膜色素変性症	20人
・特発性血小板減少性紫斑病	106人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	35人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	549人	・神経線維腫症	43人
・大動脈炎症候群	19人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	21人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	3人
・天疱瘡	21人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	56人	・ライソゾーム病	24人
・クローン病	299人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋委縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	121人	・球脊髄性筋委縮症	0人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・アミロイドーシス	8人	・肥大型心筋症	0人
・後縦靭帯骨化症	77人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・ミトコンドリア病	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	19人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	8人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	43人	・黄色靭帯骨化症	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	11人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	13人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画 (頭蓋骨顔面領域の骨変形、欠損又は骨折に係るものに限る)	・眼底三次元画像解析(黄斑円孔、黄斑前膜、加齢黄斑変性 糖尿病黄斑症、網膜剥離又は緑内障に係るものに限る)

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に2回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 35 例 / 部検率 16.30%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血液酸化ストレスマーカーと画像診断による 心筋梗塞・脳梗塞発症予知に関する研究	江原 省一	第1内科 (循環器)	1,950,000	補 文科研 基盤研究C
慢性心不全におけるthrombospondinの β ・ 断薬反応性への関与と機序	竹本 恭彦	第1内科 (循環器)	1,430,000	補 文科研 基盤研究C
喘息増悪因子としてのアディポサイトカインと 新たな治療標的の設定	浅井 一久	第1内科 (呼吸器)	2,600,000	補 文科研 基盤研究B
小細胞肺癌患者血漿でみえるトポイソメラーゼ 阻害剤の遺伝子作用部位への直接効果の検出	木村 達郎	第1内科 (呼吸器)	2,470,000	補 文科研 基盤研究B
アンジオポエチンを介する血管新生の分子機構 の解明とその喘息治療への応用	金澤 博	第1内科 (呼吸器)	1,430,000	補 文科研 基盤研究C
COPD患者における日常生活活動性の定量評価法の 確立に関する調査研究	平田一人	第1内科 (呼吸器)	500,000	委 独立行政法人 環境再生保全機構
スキルス胃癌に対する分子標的治療薬の開発 および抗癌剤との併用効果の検討	八代 正和	腫瘍分野	1,300,000	補 文科研 基盤研究C
レプチンの β 細胞機能と量における役割	森岡 与明	第2内科	2,340,000	補 文科研 基盤研究B
副甲状腺細胞内における副甲状腺ホルモン 断片化調節機構の研究	稲葉 雅章	第2内科 (骨リウマチ 内科)	1,430,000	補 文科研 基盤研究C
終末糖化産物受容体及びその可溶性受容体を 標的とした肥満・動脈硬化の制御	小山 英則	第2内科 (生活習慣・ 糖尿病セン ター)	910,000	補 文科研 基盤研究C
メタボリックシンドロームにおける頸動脈硬化症の 2元的特性に関する臨床的意義の確立	絵本 正憲	第2内科 (生活習慣・ 糖尿病セン ター)	1,300,000	補 文科研 基盤研究C
副甲状腺の腫瘍化機構とカルシウム 感知受容体の意義	今西 康雄	第2内科 (骨リウマチ 内科)	1,560,000	補 文科研 基盤研究C
ナノキャホールドによる高有効性・ 低侵襲性ハイブリッド型血管新生療法の開発	福本 真也	第2内科 (生活習慣・ 糖尿病セン ター)	1,300,000	補 文科研 基盤研究C
難治性足潰瘍モデル動物の作成と その治療促進機序の解明	田中新二	第2内科 (生活習慣 病・糖尿病セ ンター)	1,500,000	委 財団法人 大坂難病研究財団
糖尿病透析患者における血糖管理指標および 管理目標値設定に関する研究	山田真介	第2内科 (生活習慣 病・糖尿病セ ンター)	1,200,000	委 財団法人 大坂難病研究財団
上皮間充織形質転換の観点から見た 消化器疾患におけるプロスタグランジンの意義	谷川 徹也	第3内科 (消化器内 科)	780,000	補 文科研 基盤研究B
消化管苦味受容体からの求心性シグナルの 脳内分子イメージングと消化管生理機能解析	富永 和作	第3内科 (消化器内 科)	1,430,000	補 文科研 基盤研究C
プロスタグランジンの輸送・代謝機構からの 胃癌の病態生理の解明	渡邊 俊雄	第3内科 (消化器内 科)	910,000	補 文科研 基盤研究C

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
内視鏡的に視認不可能な炎症性腸疾患関連癌を視認するPDD(photodynamic diagnosis)の開発	渡辺憲治	第3内科 (消化器内科)	2,000,000円	委 独立行政法人 科学技術振興機構 平成21年度 シーズ発掘試験(発掘型)
インターフェロンの抗肝線維化分子機構の 解明とその応用	河田 則文	第3内科 (肝胆膵内 科)	13,455,000	委 肝炎等克服緊急対策研究 事業 厚生労働省
慢性肝障害バイオマーカーとしての サイトグロビンの有用性の検討	河田 則文	第3内科 (肝胆膵内 科)	2,000,000	補 科学技術振興機構
脂肪性肝炎の病態形成における マクロファージスカベンジャー受容体の役割	藤井 英樹	第3内科 (肝胆膵内 科)	33,800,000	補 文科研 若手研究B
サイトグロビンノックアウトマウスを用いた 肝硬変・肝癌病態解析	河田 則文	第3内科 (肝胆膵内 科)	7,410,000	補 文科研 基盤研究B
C型慢性肝炎の肝内マイクロRNA発現と IFN-リパビリンの治療効果	榎本 大	第3内科 (肝胆膵内 科)	1,820,000	補 文科研 基盤研究C
消化管癒着・線維形成過程の分子構築解析・ 制御法開発と腸管星細胞探索の試み	河田 則文	第3内科 (肝胆膵内 科)	5,200,000	補 文科研 基盤研究B
造血幹細胞移植治療の合併症の 評価と克服に関する研究	日野 雅之	血液内科	780,000	補 文科研 基盤研究C
ALT発症高危険群の長期追跡と発病予防の検討	高 起良	血液内科	1,000,000	補 文科研 特定領域研究
治療関連合併症を減少させて同種造血幹細胞 移植後の生存率の向上を目指す標準的 治療法の開発研究	日野雅之 (分担研究者)	血液内科	1,000,000	補 厚労科研 がん臨床研究事業
同種末梢造血幹細胞移植を非血縁者間で行う 場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	日野雅之 (分担研究者)	血液内科	700,000	補 厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
β アミロイドPETにおけるアミロイド陰性認知症患者 の臨床的特徴に関する研究	嶋田 裕之	老年科 神経内科	1,300,000	補 文科研 基盤研究C
早期認知症患者におけるアミロイドペット検査 の臨床的有用性の検討	三木 隆己	老年科 神経内科	4,160,000	補 文科研 基盤研究B
血管石灰化の進展におけるWntシグナル 経路の役割に関する研究	塩井 淳	循環器血管	910,000	補 文科研 基盤研究C
遺伝性神経疾患における細胞治療の長期効果 に対する免疫関与に関する研究	田中 あけみ	小児・新生児科	1,040,000	補 文科研 基盤研究C
マイクロベットを用いた低酸素性虚血性脳症の 病態解明と治療法に関する研究	新宅 治夫	小児・新生児科	1,430,000	補 文科研 基盤研究C
グルタミン脱水素酵素異常症における 高アンモニア血症の病態解明と治療法の開発	岡野 善行	小児・新生児科	1,950,000	補 文科研 基盤研究C
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と患者数の 実態調査に関する研究	新宅 治夫	小児・新生児科	22,000,000	委 難治性疾患克服研究事業
現行マスキングの問題解決に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生 児科	200,000	補 厚生労働省
先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡 システムの構築	新宅 治夫	小児科・新生 児科	1,000,000	委 国立成育センター
乳幼児のぜん息ハイリスク群を対象とした保健指導 の実践および評価手法に関する調査研究	新宅 治夫	小児科・新生 児科	6,400,000	補 独立行政法人・環境再生 保全機構

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と患者数の実態調査に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	22,000,000	補 厚生労働省
先天性ケトン体代謝異常症(β -ケトチオラーゼ欠損症、サクシニル-CoA:3-ケト酸CoAトランスフェラーゼ欠損症)の発症形態と患者数の把握、診断指針の作成に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,000,000	補 厚生労働省
新規治療法が開発された小児希少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立	田中あけみ	小児科・新生児科	2,000,000	補 厚生労働省
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	田中あけみ	小児科・新生児科	2,000,000	補 厚生労働省
新しい新生児マススクリーニング体制の検討	田中あけみ	小児科・新生児科	150,000	補 厚生労働省
シトリン欠損症の自然歴と生活歴にもとづく実態解明と治療指針の作成	岡野善行	小児科・新生児科	14,950,000	補 厚生労働科学省 厚生労働科学研究費補助金
ヒトフェニルアラニン水酸化酵素のin vivoでの発現と制御機構の解明	岡野善行	小児科・新生児科	600,000	補 森永奉仕会
慢性期および急性期の統合失調症のQOLに関する研究	谷 宗英	神経精神科	910,000	補 文科研 若手研究B
パニック障害の予後および認知行動療法の転帰予測について	福原 秀浩	神経精神科	1,560,000	補 文科研 若手研究B
摂食障害におけるアジポサイトカイン、脳由来神経栄養因子。短期的予後との関連	永田 利彦	神経精神科	1,300,000	委 文科研 若手研究C
摂食障害の疫学、病態と診断、治療法、転帰と予後に関する研究	切池 信夫	神経精神科	4,600,000	委 精神・神経疾患 研究委託費
拒食と無茶食いの体重とグレリン動態	岩崎 進一	神経精神科	520,000	補 大阪市立大学
ラミン制御による発毛機構の解明	鶴田大輔	皮膚科	650,000	委 大阪市
ヒト脳でのフェリチン・ヘモジリン分布のMRIにおける標準画像の作成	西口 智一	放射線科	910,000	補 文科研 若手研究B
家兎肺腫瘍モデルに対するラジオ波凝固とGM-CSF局所注入による免疫賦活療法	大隈 智尚	放射線科	2,600,000	補 文科研 若手研究B
高磁場MR装置による磁化率強調画像を応用した新しい髄鞘イメージングの開発・応用	三木 幸雄	放射線科	8,580,000	補 文科研 若手研究B
ブタ正常肺及び家兎腫瘍肺モデルのラジオ波凝固時における組織内温度分布の測定	松岡 利幸	放射線科	1,430,000	補 文科研 若手研究C
胸部悪性腫瘍のラジオ波焼灼療法に関する研究	松岡利幸	放射線科	650,000	補 厚生労働省科学研究 補助金 (分担研究)
特発性門脈圧亢進症の病態解析	川村 悦史	核医学	780,000	補 文科研 若手研究B
ツ化ナトリウムによる甲状腺癌骨転移検索治療効果判定に関	河邊 譲治	核医学	1,170,000	補 文科研 若手研究C

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
門脈血行異常に関する調査研究	塩見 進	核医学	800000	補 厚生労働省特定疾患対策研究
アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する研究	塩見 進	核医学	1100000	補 厚生労働省特定疾患対策研究
スキルス胃癌の病態と分子標的治療	平川 弘聖	第1外科	1,430,000	補 文科研 基盤研究B
肺癌に対する新しい分子標的治療	仲田 文造	第1外科	1,170,000	補 文科研 基盤研究C
VEGF受容体およびPDGF受容体をターゲットとした大腸癌の分子標的治療	山田 靖哉	第1外科	910,000	補 文科研 基盤研究C
肺癌に対するラパチニブ+S-1併用療法	仲田文造	第1外科	¥300,000	補 財団法人 大阪対ガン協会 ガン研究助成奨励金
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究	久保正二	第2外科(肝胆膵外科)	200,000	補 厚生労働科学研究費
多面的な分子生物学的解析による非B非C型肝炎細胞癌発癌機構の解明と臨床応用	久保 正二	第2外科(肝胆膵)	1,300,000	補 文科研 基盤研究C
低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究	齋口 尚弘	脳神経外科	2,860,000	補 文科研基盤研究C 独立行政法人日本学術振興会
BMPシグナル伝達系へのカテコラミンの促進効果(運動による骨形成促進メカニズム)	橋本 祐介	整形外科	1,820,000	補 文科研 若手研究B
生体吸収性ポリマーを用いたSIRNA導入法の開発-骨再生への応用	鈴木 亨暢	整形外科	1,820,000	補 文科研 若手研究B
iPS細胞を用いたハイブリッド型人工神経による末梢神経欠損部の架橋実験	高松 聖仁	整形外科	1,820,000	補 文科研 若手研究C
大腸菌由来骨形成蛋白とコンピューター支援技術を用いた骨欠損部再生修復システムの創生	岩城 啓好	整形外科	910,000	補 文科研 若手研究C
パラバイオスラットを利用した骨軟骨欠損修復細胞由来の解明と組織修復への応用	脇谷 滋之	整形外科	1,950,000	補 文科研 若手研究C
自家骨移植による局所的骨再生メカニズムの解明	中村 博亮	整形外科	910,000	補 文科研 若手研究C
コラーゲン誘発関節炎の発症進展へのレプチン抵抗性の関与	小池 達也	整形外科	1,600,000	補 文科研 挑戦的萌芽研究
骨形成蛋白と新しい薬物伝達系を用いた脊椎棘突起間固定体	豊田 宏光	整形外科	1,560,000	補 文科研 若手研究 (スタートアップ)
関節構成支持体(靭帯、半月板)損傷に対する細胞移植を必要としない組織再生と臨床応用の研究	橋本 裕介	整形外科	3,000,000	委 長寿科学総合研究事業
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	中村 博亮	整形外科	1,200,000	補 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	中村 博亮	整形外科	2,000,000	補 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
ホルモン抵抗性前立腺癌の進展の機序	玉田 聡	泌尿器科	390,000	補 文科研 若手研究B

研 究 課 題 名	研究者氏名	所属部門	金 額	補 助 元 又 は 委 託 元
前立腺癌発癌機序における 活性酸素関連遺伝子の多型解析	井口 太郎	泌尿器科	2,730,000	補 文科研 若手研究B
強度近視での眼球位置異常に対する外科療法	山口 真	眼科	200,000	補 大阪眼衛生協会
帯状疱疹後神経痛に伴う脳内モノアミン動態の 解明—難治性疼痛の治療に向けて	舟尾 友晴	麻酔科	1,170,000	補 文科研 若手研究B
中枢性疼痛の発現機序—脳内交感神経受容体 との関連の解明治療への応用に向けて	高橋 陵太	麻酔科	1,170,000	補 文科研 若手研究B
局所麻酔薬の抗炎症作用の解明 —炎症性疼痛の治療への応用を目指して—	長谷 一郎	麻酔科	2,210,000	補 文科研 若手研究B
局所麻酔薬の中樞神経作用の検討—脳波への 影響および併用薬物による変化について	田中 克明	麻酔科	1,820,000	補 文科研 若手研究B
麻酔薬の作用発現調節機構 —脳内薬物動態と脳波、交感神経受容体との関連—	小田 裕	麻酔科	1,300,000	補 文科研 若手研究C
ニコチンによる術後鎮痛 —脊髄後角インビボパッチクランプ法を用いた検討—	森 隆	麻酔科	2,470,000	補 文科研 若手研究C
重症急性肺炎等における高気圧酸素療法の炎症制御、 感染防御効果に関する研究	加藤 昇	救急部	500,000	補 文科研 挑戦的萌芽研究
内因性救急疾患に対する「救命救急診療 シミュレーションコース」の Constant validityに関する検討	山本啓雅	救急部	500,000	補 公益信託丸茂救急医学 研究振興基金
3軸加速度計測装置付簡易心電センサ(簡易無線バイタルセ ンサ)の有効性の検討	原 晋介	血行動態学	10,000,000	補 総務省 戦略的情報通信開発推進 制度

小計

11

累計 91

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
- The Japanese trial to assess optimal systolic blood pressure in elderly hypertensive patients (JATOS) -. Circ J. 2010;74(5):938-45.	Impact of electrocardiographic left ventricular hypertrophy on the occurrence of cardiovascular events in elderly hypertensive patients.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2010 Mar;55(2):256-265.	Comprehensive evaluation of the apex beat using 64-slice computed tomography: Impact of left ventricular mass and distance to chest wall.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2010 Mar;55(2):248-255.	A novel echocardiographic index of inefficient left ventricular contraction resulting from mechanical dyssynchrony.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2009 Dec 28.	Conduction Delay in Right Ventricle as a Marker for Identifying High-Risk Patients With Brugada Syndrome.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2009 Dec;54(3):425-31.	Transnasal transesophageal echocardiography in the detection of left atrial thrombus.	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr. 2009 Dec;22(12):1389-95.	Direct measurement of wall stiffness for carotid arteries by ultrasound strain imaging.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2009 Oct;73(10):1836-40.	A predictor of positive drug provocation testing in individuals with saddle-back type ST-segment elevation.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City Med J. 2009 Jun;55(1):1-7.	Utility of novel volumetric intravascular ultrasound analysis software for coronary artery disease.	葭山 稔	循環器内科
Atherosclerosis. 2010 Feb;208(2):524-30.	Elevated levels of neopterin are associated with carotid plaques with complex morphology in patients with stable angina pectoris.	葭山 稔	循環器内科
Recent Pat Cardiovasc Drug Discov. 2009 Nov;4(3):234-40.	Gender differences in ischemic heart disease.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2009 Aug;73(8):1448-53.	Inadequate increase in the volume of major epicardial coronary arteries compared with that in left ventricular mass. Novel concept for characterization of coronary arteries using 64-slice computed tomography.	葭山 稔	循環器内科
Hypertens Res. 2009 Aug;32(8):675-9.	Pravastatin accelerates ischemia-induced angiogenesis through AMP-activated protein kinase.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2009 Sep;20(9):1026-31.	Usefulness of multichannel Holter ECG recording in the third intercostal space for detecting type I Brugada ECG: comparison with repeated 12-lead ECGs.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2009 Jun;73(6):1092-6.	Pocket-sized transthoracic echocardiography device for the measurement of cardiac chamber size and function.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2009 Apr;53(2):257-64.	Comparison of determinations of left atrial volume by the biplane area-length and Simpson's methods using 64-slice computed tomography.	葭山 稔	循環器内科
Ann Hematol. 2009 Sep;88(9):871-9.	Cardiac and autonomic nerve function after reduced-intensity stem cell transplantation for hematologic malignancy in patients with pre-transplant cardiac dysfunction.	葭山 稔	循環器内科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 15(3):174-177 (2009年6月)	Squamous cell carcinoma presenting as a solitary growing cyst in lung: a diagnostic pitfall in daily clinical practice.	平田一人	循環器内科
Annals of Oncology 20(5):835-841 (2009年5月)	Phase III trial of docetaxel plus gemcitabine versus docetaxel in second-line treatment for non-small-cell lung cancer: results of a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG0104).	工藤新三	呼吸器内科
Japanese Journal of Radiology 28(1):43-47 (2010年1月)	Limited-stage small cell lung cancer: local failure after concurrent chemoradiotherapy with use of accelerated hyperfractionation.	工藤新三	呼吸器内科

小計19

2 論文発表等の実績

Journal of thoracic oncology 5(1):105-109 (2010年1月)	Phase II trial of amrubicin for second-line treatment of advanced non-small cell lung cancer: results of the West Japan Thoracic Oncology Group trial (WJTOG0401).	工藤新三	呼吸器内科
Journal of Clinical Oncology 28(5):753-760. (2010年2月)	Randomized phase III trial of platinum-doublet chemotherapy followed by gefitinib compared with continued platinum-doublet chemotherapy in Japanese patients with advanced non-small-cell lung cancer: results of a west Japan thoracic oncology group trial (WJTOG0203).	工藤新三	呼吸器内科
Aerugi 58(5):554-559 (2009年5月)	Potential mechanisms of airway remodeling initiated by activated thrombin in asthma.	金澤博	呼吸器内科
Clinical & Experimental Allergy 39(9):1330-1337 (2009年9月)	Increased levels of angiotensin-2 in induced sputum from smoking asthmatic patients.	金澤博	呼吸器内科
Anticancer Drugs 20(6):513-518. (2009年7月)	Plasma concentration of amrubicin in plateau phase in patients treated for 3 days with amrubicin is correlated with hematological toxicities.	木村達郎	呼吸器内科
日本皮膚科学会雑誌 119(5)963 2009年4月	非典型的な自己抗体プロファイルを示した全身性エリテマトーデス(SLE)	根来 伸夫	膠原病内科
日本透析医学会雑誌 42巻Suppl.1 653 2009年5月	Fabry病透析患者に対する酵素補充療法(ERT) 治療効果とagalsidase α の薬物動態	根来 伸夫	膠原病内科
Metabolism 59(3):390-394, 2010 (2010年3月)	Association of glycosylated albumin, but not glycosylated hemoglobin, with calcaneus quantitative ultrasound in male hemodialysis patients with type 2 diabetes mellitus.	稲葉雅章	生活習慣病・糖尿病センター
Ther Apher Dial. 2009 Oct;13 Suppl 1:S7-S11.(2009年10月)	Cinacalcet in hyperfunctioning parathyroid diseases. Ther Apher Dial 13 Suppl 1S7-S11, 2009	今西康雄	骨リウマチ内科
Biomed Pharmacother 2010 Feb;64(2):107-112 (2010年2月)	Time-course of health status in patients with rheumatoid arthritis during the first year of treatment with infliximab. Biomed Pharmacother 64(2):107-112	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Angiology. 2010 Feb-Mar;61(1):86-91 (2010年2-3月)	Effects of pravastatin on serum osteoprotegerin levels in patients with hypercholesterolemia and type 2 diabetes.	森克仁	生活習慣病・糖尿病センター
Biomed Pharmacother. 2010 Feb;64(2):113-7(2010年2月)	Thyroid blood flow as a useful predictor of relapse of Graves' disease after normal delivery in patients with Graves' disease.	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Mod Rheumatol. 2010 Feb;20(1):69-73 (2010年2月)	Preferential reduction of bone mineral density at the femur reflects impairment of physical activity in patients with low-activity rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol 20(1):69-73	後藤仁志	骨リウマチ内科
Atherosclerosis. 2009 Dec;207(2):579-84 (2009年12月)	Plasma angiotensin-like protein 3 (ANGPTL3) concentration is associated with uremic dyslipidemia.	庄司哲雄	生活習慣病・糖尿病センター
Nephrol Dial Transplant. 2010 Feb;25(2):581-6 (2010年2月)	Dialysis modality is independently associated with circulating endothelial progenitor cells in end-stage renal disease patients. Nephrol Dial Transplant 25(2):581-586	小山英則	生活習慣病・糖尿病センター
Compr Psychiatry. 2010 Jan- Feb;51(1):78-85 (2010年1-2月)	Premorbid personality in chronic fatigue syndrome as determined by the Temperament and Character Inventory.	西澤良記	生活習慣病・糖尿病センター
Comput Biol Med. 39(1):16-26 (2009年1月)	Detection of contractions in adaptive transit time of the small bowel from wireless capsule endoscopy videos.	荒川哲男	消化器内科

2 論文発表等の実績

J Gastroenterol.44 Suppl 19:8-17 (2009年1月)	Long-term use of nonsteroidal anti-inflammatory drugs normalizes the kinetics of gastric epithelial cells in patients with Helicobacter pylori infection via attenuation of gastric mucosal inflammation.	谷川徹也	消化器内科
Ann Hematol. 88(8):789-93 (2009年8月)	Long-term efficacy of Helicobacter pylori eradication in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura: 7-year follow-up prospective study.	Tsumoto C	消化器内科
J Gastroenterol. 44(6):550-5 (2009年4月)	Prevalence of Mid Gastrointestinal Bleeding in Patients with Acute Overt Gastrointestinal Bleeding: Multi-Center Experience with 1044 Consecutive Patients	岡崎博俊	消化器内科
Am J Gastroenterol. 104(9):2214-21 (2009年9月)	Predictive factors of worsening of esophageal varices after balloon-occluded retrograde transvenous obliteration in patients with gastric varices	藤原靖弘	消化器内科
J Gastroenterol Hepatol. 24(4):633-8 (2009年4月)	Comparison of endoscopic findings with symptoms assessment systems (FSSG and QUEST) for gastroesophageal reflux disease in Japanese centers	藤原靖弘	消化器内科
Digestion. 79(3):177-85 (2009年4月3日)	A questionnaire-based survey of prescription of non-steroidal anti-inflammatory drugs by physicians in East Asian countries in 2007.	荒川哲男	消化器内科
J Clin Biochem Nutr. 45(1):86-92 (2009年7月)	Lansoprazole, a Proton Pump Inhibitor, Suppresses Production of TNF- α and IL-1 β Induced by Lipopolysaccharide and Helicobacter Pylori Bacterial Components in Human Monocytic Cells via Inhibition of Activation of NF- κ B and ERK	谷川徹也	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun.1;382(2):252-8 (2009年5月)	Anti-inflammatory effects of IL-17A on Helicobacter pylori-induced gastritis	大谷恒史	消化器内科
J Gastroenterol. 44(7):675-84 (2009年5月14日)	Short-term and long-term outcome of endoluminal gastroplication for the treatment of GERD: the first multicenter trial in Japan.	荒川哲男	消化器内科
J Exp Clin Cancer Res. 16;28:83 (2009年6月)	Gemcitabine sensitivity-related mRNA expression in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy of unresectable pancreatic cancer.	蘆田玲子	消化器内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 297(3):G506-13 (2009年9月)	Probiotic Lactobacillus casei strain Shirota prevents indomethacin-induced small intestinal injury: involvement of lactic acid.	渡辺敏雄	消化器内科
Digestion.80(2):119-28 (2009年7月27日)	A 2008 questionnaire-based survey of gastroesophageal reflux disease and related diseases by physicians in East asian countries.	藤原靖弘	消化器内科
Int J Mol Med.24(6):829-35 (2009年12月)	Dislocation of Rab13 and vasodilator-stimulated phosphoprotein in inactive colon epithelium in patients with Crohn's disease.	大平雅一	消化器内科
Am J Gastroenterol. 104(11):2779-87 (2009年11年)	Efficacy of the 5-HT1A agonist tandospirone citrate in improving symptoms of patients with functional dyspepsia: a randomized controlled trial.	富永和作	消化器内科
Am J Gastroenterol. 104(9):2360-2 (2009年9月)	Novel management of chronic idiopathic intestinal pseudo-obstruction.	鎌田紀子	消化器内科
J. Clin. Biochem. Nutr.46, 81-86 (2010年1月)	Bile Acids Induce Cdx2 Expression Through The FXR in Gastric Epithelial Cells.	Xu Y	消化器内科
Journal of Gastroenterology (2010年2月9日)	Wireless capsule endoscopy in pediatric patients: the first series from Japan	渡邊憲治	消化器内科
Digestion. 2010 Jan 9;81(2):86-95. (2010年1月9日)	Leptin Promotes Gastric Ulcer Healing via Upregulation of Vascular Endothelial Growth Factor.	谷川徹也	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy in press (2010年5月7日)	Photodynamic diagnosis of endoscopically invisible flat dysplasia in patients with ulcerative colitis by visualization using local 5-aminolaevulinic acid-induced photosensitization	渡邊憲治	消化器内科
Evid Based Complement Alternat Med. in press (2009年10月27日)	The Traditional Japanese Medicine Rikkunshito Promotes Gastric Emptying via the Antagonistic Action of the 5-HT3 Receptor Pathway in Rats.	富永和作	消化器内科
日本臨床(0047-1852)別冊消化管症候群(上) Page173-176 (2009年9月)	食道 汎発性食道けいれん	藤原靖弘	消化器内科

2 論文発表等の実績

過敏性腸症候群 脳と腸の対話を求めて。佐々木大輔編、中山書店、p 71-74(2009年7月)	鑑別診断	荒川哲男	消化器内科
診断と治療社 P.75-78 (2009年12月)	消化器研修ノート	山上博一	消化器内科
日本臨床社 総ページ数644頁 担当部分:P143-p145 (2009年7月28日)	別冊 日本臨床 消化管症候群(第2版)上:食道 37. 食道放線菌症	渡辺俊雄	消化器内科
日本臨床社 総ページ数644頁 担当部分:P89-p92 (2009年7月28日)	別冊 日本臨床 消化管症候群(第2版)上:食道 37. 食道結核	富永和作	消化器内科
日本消化器病学会総ページ数480頁 担当部分:P337-p339 (2009年7月)	消化器病学の進歩—原点から未来への情報発信 第94回日本消化器病学会総会記念誌 1. 消化管領域: 小腸虚血再灌流障害におけるMyD88の役割	渡辺俊雄	消化器内科
潰瘍(0916-3301)36巻1号 Page13-16 (2009年)	GERDと喘息の相互関連についての基礎的検討	藤原靖弘	消化器内科
日本臨床(0047-1852)67巻9号 Page1731-1740 (2009年11月)	【機能性身体症候群(FSS) 実態と診療のストラテジ】診療現場での機能性身体症状の実態 消化器内科診療とFSS	富永和作	消化器内科
心身医学(0385-0307)49巻7号 Page783-790 (2009年6月)	機能性胃腸症(Functional Dyspepsia)の病態を巡る脳腸相関 脳腸相関性と自律神経系からみたFDの病態とその治療	富永和作	消化器内科
消化器科(0289-8756)48巻4号 Page407-411 (2009年4月)	【Functional Dyspepsia(FD)の新たな展開】FDにおける脳内serotonin transporter imaging	富永和作	消化器内科
治療(0022-5207)91巻6号 Page1802-1804 (2009年6月)	【漢方診療のイロハ これから漢方導入を考えている一般医のための基本と実践】六君子湯	富永和作	消化器内科
総合臨床(0371-1900)58巻2号 Page370-377 (2009年7月)	臨床病理カンファレンス 残胃癌	富永和作	消化器内科
消化器の臨床12巻3号 Page294-297 (2009年7月)	薬剤による消化管出血に対する治療 薬剤による上部消化管出血に対する内科的予防・治療の効果と実際 プロスタグランジン製剤・粘膜防御製剤	藤原靖弘	消化器内科
G.I. Research、17: p54-60 (2009年6月)	特集:低用量アスピリン—何が問題か?。低用量アスピリン起因性小腸傷害の診断・治療	渡辺俊雄	消化器内科
消化器科 48: p151-154 (2009年4月)	特集1:カプセル内視鏡の進歩と有用性。カプセル内視鏡を用いた小腸粘膜障害の診断と治療効果の判定	渡辺俊雄	消化器内科
G.I. Research、17: p31-36 (2009年12月)	特集:ミトコンドリアがおもしろい! 消化管疾患へのアプローチ: NSAIDsによる小腸粘膜傷害の成因としてのミトコンドリア障害	渡辺俊雄	消化器内科
G.I. Research、17: p76-80 (2009年12月)	新消化管の分子生物学 第5回:腸管自然免疫応答の分子生物学	渡辺俊雄	消化器内科
Gastroenterology (2009年4月)	Noninvasive laboratory tests proposed for predicting cirrhosis in patients with chronic hepatitis C are also useful in patients with non-alcoholic steatohepatitis.	田守 昭博	肝胆膵内科
Hepatology International (2009年4月)	Effect of natural interferon alpha on proliferation and apoptosis of hepatic stellate cells.	河田則文	肝胆膵内科
Medical Virology (2009年6月)	Frequent detection of hepatitis B virus DNA in hepatocellular carcinoma of patients with sustained virologic response for hepatitis C virus.	田守 昭博	肝胆膵内科
Liver Transplantation (2009年7月)	A randomized pilot trial of oral branched-chain amino acids in early cirrhosis: validation using prognostic markers for pre-liver transplant status.	河田則文	肝胆膵内科
Journal of Viral Hepatitis (2009年8月)	Add-on combination therapy with adefovir dipivoxil induces renal impairment in patients with lamivudine-refractory hepatitis B virus.	田守 昭博	肝胆膵内科

2 論文発表等の実績

Rev Recent Clin Trials 年9月)	(2009	Emerging antiviral drugs for hepatitis C virus.	榎本 大	肝胆膵内科
Gut 年11月)	(2009	Applicability of BARD score to Japanese patients with NAFLD.	藤井 英樹	肝胆膵内科
Lab Investigation (2009年11月)		Reversibility of fibrosis, inflammation, and endoplasmic reticulum stress in the liver of rats fed a methionine-choline-deficient diet.	河田則文	肝胆膵内科
Biochemical and Biophysical Research Communications (2009年11月)		Suppression of type I collagen production by microRNA-29b in cultured human stellate cells.	河田則文	肝胆膵内科
J Atheroscler Thromb (2009年12月)		Expression of perilipin and adipophilin in nonalcoholic fatty liver disease; relevance to oxidative injury and hepatocyte ballooning	藤井 英樹	肝胆膵内科
肝臓 (2009年5月)		各種治療に抵抗性を示した自己免疫性肝炎の1例	河田則文	肝胆膵内科
Annals of Hematology. 88(9):871-9. (2009年9月)		Cardiac and autonomic nerve function after reduced-intensity stem cell transplantation for hematologic malignancy in patients with pre-transplant cardiac dysfunction.	日野雅之	血液内科
International Journal of Hematology.89(5):649-55. (2009年 6月)		Efficacy and safety of intravenous itraconazole as empirical antifungal therapy for persistent fever in neutropenic patients with hematological malignancies in Japan.	日野雅之	血液内科
Journal of Experimental and Clinical Cancer Research. 19;28:116. (2009年8月)		Impact of relative dose intensity (RDI) in CHOP combined with rituximab (R-CHOP) on survival in diffuse large B-cell lymphoma.	日野雅之	血液内科
Americal Journal of Roentgenology.192(4):1003- 11.(2009年4月)		CNS complications of hematopoietic stem cell transplantation.	日野雅之	血液内科
Virchows Arch. 455(3):285- 93.(2009年9月)		Diffuse large B-cell lymphoma with a high number of epithelioid histiocytes (lymphoepithelioid B-cell lymphoma): a study of Osaka Lymphoma Study Group.	日野雅之	血液内科
Virchows Arch. 456(3):269-76. (2010年3月)		Polymorphous lymphoproliferative disorder: a clinicopathological analysis.	日野雅之	血液内科
J Biochem. 第146巻, p.51-60, (2009年7月)		Expression analysis of the aldo-keto reductases involved in the novel biosynthetic pathway of tetrahydrobiopterin in human and mouse tissues.	新宅治夫	小児科
Movement Disorders. 第24巻, p.2289-2290, (2009年11月)		Plasma phenylalanine level in dopa-responsive dystonia.	新宅治夫	小児科
RAPID COMMUNICATIONS IN MASS SPECTROMETRY. 第23巻, p.3167-3172, (2009年10月)		Urinary metabolic profile of phenylketonuria in patients receiving total parenteral nutrition and medication.	新宅治夫	小児科
Pediatric Int. 第63巻 in press, (2009年12月)		Extended use and long-term storage of newborn screening spots in Japan.	新宅治夫	小児科
Brain & Development 31: 717-724, 2009 (2009年11月)		Intracerebral cell transplantation therapy for murine GM1 gangliosidosis.	田中あけみ	小児科
Molecular Genetics and Metabolism 99: 18-25, 2010 (2010年1月)		Japan Elaprase Treatment (JET) Study: Idursulfase Enzyme Replacement Therapy in Adult Patients with Attenuated Hunter Syndrome.	田中あけみ	小児科
皮膚病診療 31: 349-352, 2009 (2009年4月)		血管型Ehlers-Danlos症候群と血友病Aの合併例	田中あけみ	小児科
小児科学会雑誌 114: 463-467, 2010 (2010年3月)		△コ多糖症親の会患者家族に対する酵素補充療法の意識調査(酵素補充療法承認前調査)	田中あけみ	小児科・新生児科

2 論文発表等の実績

Molecular Genetic Metabolism 97:21-26 (2009年5月)	Sustaining hypercitrullinemia, hypercholesterolemia and augmented oxidative stress in Japanese children with aspartate/glutamate carrier isoform 2-citrin-deficiency even during the silent period.	岡野善行	小児科・新生児科
Rapid Commun Mass Spectrom 23:3167-3172 (2009年10月)	Urinary metabolic profile of phenylketonuria in patients receiving total parenteral nutrition and medication.	新宅治夫	小児科・新生児科
日本小児科学会雑誌 113:649-653 (2009年12月)	テトラヒドロピオブテリン反応性高フェニルアラニン血症に対する天然型BH4製剤塩酸サプロブテリンの適正使用に関する暫定指針.	新宅治夫	小児科・新生児科
Meatabolism Metabolism. 59(1):107-113 (2010年1月)	Altered metabolism of mediators controlling vascular function and enhanced oxidative stress in asymptomatic children with congenital portosystemic venous shunt.	岡野善行	小児科・新生児科
J ournal of Human Genetics 55(1):18-22. (2010年1月)	Mutant alleles associated with late-onset ornithine transcarbamylase deficiency in male patients have recurrently arisen and have been retained in some populations.	岡野善行	小児科・新生児科
Blood(2009年6月)	Pivotal role of mast cells in pruritogenesis in patients with myeloproliferative disorders.	石井武文	小児科・新生児科
Leukemia(2009年9月)	Involvement of mast cells by the malignant process in patients with Philadelphia chromosome negative myeloproliferative neoplasms.	石井武文	小児科・新生児科
Cancer Ressearch(2009年10月)	Correction of the abnormal trafficking of primary myelofibrosis CD34+ cells by treatment with chromatin-modifying agents.	石井武文	小児科・新生児科
Blood Cells Mol Dis(2009年12月)	Human CD34+ cells are capable of generating normal and JAK2V617F positive endothelial like cells in vivo.	石井武文	小児科・新生児科
日本未熟児新生児学会(2009年6月)	慢性肺疾患の病態に関わる細胞増殖因子の対する薬剤作用の検討	齊藤三佳	小児科・新生児科
単行本、医学書院(2009年4月)	摂食障害 第2版	切池信夫	神経精神科
肥満と糖尿病 8(2):256-257 (2009年8月)	摂食障害の薬物療法は？	切池信夫	神経精神科
精神科治療学(2009年10月)	認知行動療法	切池信夫	神経精神科
女性心身医学 14(3), 246-250, 2010-02-28	働く女性と摂食障害	切池信夫	神経精神科
精神医学52(1), 17-24, 2010-01	きこもる摂食障害を就労支援へつなげることできた2症例	永田利彦	神経精神科
精神医学51(12), 1157-1163, 2009-12	就労支援事業が就労につながった全般的社交不安障害(回避性パーソナリティ障害)の2症例	永田利彦	神経精神科
Industrial Health47(6), 649-655, 2009-11	Associations between lifestyle factors, working environment, depressive symptoms and suicidal ideation: a large-scale study in Japan.	井上幸紀	神経精神科
Progress in Medicine (2010年2月)	慢性疲労症候群患者に対する1日2回服用タイプの補中益気湯の治療効果	松井徳造	神経精神科
臨床精神医学38(9), 1213-1220, 2009-09	がん患者に対する大学病院精神科病棟の利用について	松井徳造	神経精神科
最新精神医学14(3)245-251 (2009年5月)	うつ病と強迫性障害	松井徳造	神経精神科
産業医学プラザ(18), 11-16, 2009-10	特集:職場における自殺予防対策 (3)主治医との連携	岩崎 進一	神経精神科

2 論文発表等の実績

心身医学 50(2), 159-163, 2010-02-01	社交不安障害(Social Anxiety Disorder:SAD):沈黙の障害(押さえておきたい!心身医学の臨床の知15) Social Anxiety Disorder: a Quiet Disorder(Have a Good Grasp on the Clinical Wisdom in Psychosomatic Medicine)	永田 利彦	神経精神科
精神神経学雑誌 111(7), 837-842, (2009年7月)	アルコール使用障害と不安障害の併存(第104回日本精神神経学会総会)ー(シンポジウム 精神疾患とアルコール使用障害との合併ーその双方向的関係)	永田 利彦	神経精神科
こころの科学 (147), 32-36, 2009-09	社交不安障害の概念の拡大と対人恐怖症(対人恐怖)	永田 利彦	神経精神科
治療 91(-), 1278-1281, 2009-04	社交不安障害(患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス)	永田 利彦	神経精神科
臨床精神医学 38(9), 1213-1220, 2009-09	がん患者に対する大学病院精神科病棟の利用についてー緩和医療の視点から(特集 精神科と他科・他職種との連携)	松井 徳造	神経精神科
Osaka City Medical Journal 55(1):35-52 (2009年6月)	Survival analysis of malignant melanoma in Japan-multivariate analysis of prognostic factors	石井正光	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 34(5):120-122 (2009年7月)	Annular leucocytoclastic vasculitis	小林裕美	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 34(7): e309-e310 (2009年10月)	Fixed food eruption caused by Japanese sand lance	鶴田大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 36(10):548-550 (2009年10月)	Rapid detection of Bartonella henselae heat shock protein DNA by nested polymerase chain reaction from swollen lymph nodes of a patient with cat-scratch disease	石井正光	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 34(8):e751-753 (2009年12月)	Necrotizing fasciitis caused by Cryptococcus neoformans in a patient with pemphigus vegetans	石井正光	皮膚科
Dermatologic Surgery 36(1):152-154 (2010年1月)	Dermoscopic features of pigmentation in Laugier-Hunziker-Baran syndrome	石井正光	皮膚科
Journal of Dermatological Science 57(3):219-220 (2010年3月)	The papillary structure identified by a novel nail wound healing model in mice	小林裕美	皮膚科
Dermatology Online Journal 16(3):16 (2010年3月)	Letter: Adult measles with a butterfly rash-like appearance	鶴田大輔	皮膚科
British Journal of Dermatology 162(3):687-689 (2010年3月)	Three-base deletion mutation c.120.122delGTT in ATP2A2 leads to the unique phenotype of comedonal Darier disease	鶴田大輔	皮膚科
Cardiovascular and interventional radiology Epub ahead of print (2009年12月5日)	Determinants of local progression after computed tomography-guided percutaneous radiofrequency ablation for unresectable lung tumors: 9-year experience in a single Institution.	松岡利幸	放射線科
AJR. American journal of roentgenology 192(4):1057-1063 (2009年4月)	Identifying feeding arteries during TACE of hepatic tumors: comparison of C-arm CT and digital subtraction angiography.	中村健治	放射線科
The British journal of radiology 82(978):447-451 (2009年6月)	Quality of portal verification radiography using EC-L film in electron beam therapy.	細野雅子	放射線科
The British journal of radiology 82(984):989-994 (2009年12月)	Assessment of early treatment response after CT-guided radiofrequency ablation of unresectable lung tumours by diffusion-weighted MRI: a pilot study.	松岡利幸	放射線科

2 論文発表等の実績

NeuroImage 49(1)488-497 (2010年1月)	Quantitative imaging of spontaneous neuromagnetic activity for assessing cerebral ischemia using sLORETA-qm.	三木幸雄	放射線科
Japanese journal of radiology 28(1)43-7 (2010年1月)	Limited-stage small cell lung cancer: local failure after concurrent chemoradiotherapy with use of accelerated hyperfractionation.	細野雅子	放射線科
Japanese journal of radiology 28(1)48-52 (2010年1月)	Chest wall temperature during radiofrequency ablation in a normal rabbit lung model.	松岡利幸	放射線科
J Med Virol 81(6)1009-1014 (2009年6月)	Frequent detection of hepatitis B virus DNA in hepatocellular carcinoma of patients with sustained virologic response for hepatitis C virus	塩見 進	核医学科
Liver Transpl 15(4)790-797 (2009年7月)	A randomized pilot trial of oral branched-chain amino acids(BCAA) in early cirrhosis: validation using prognostic markers for pre-liver transplant status	川村悦史	核医学科
Am J Pathol 175(2)616-626 (2009年8月)	Endothelial to mesenchymal Transition via Transforming Growth factor- β 1/Smad Activation Is Associated with Portal Venous Stenosis in Idiopathic Portal Hypertension	塩見 進	核医学科
Mol Imaging Biol 11(5)480-486 (2009年11月)	NEC density and liver ROI S/N ratio for image quality control of whole-body FDG-PET scans: comparison with visual assessment	塩見 進	核医学科
Hepato-Gastroenterol 56(6)1719-1723 (2009年12月)	Comparison of the effect of oral supplementation with branched-chain amino acid on serum albumin level between decompensated cirrhosis and compensated cirrhosis	塩見 進	核医学科
J Viral Hepat 17(1)123-129 (2010年1月)	Add-on combination therapy with adefovir dipivoxil induces renal impairment in patients with lamivudine-refractory hepatitis B virus	塩見 進	核医学科
がんサポート 特集 胃がん・食道がん・69:34-37, (2009年4月)	分子標的治療薬の研究が進み、スキルス胃がん治療に光が見えてきた	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
消化器外科 32(5):973-975,2009-4	癌の告知	野田英児	第1外科 (腫瘍外科)
INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY 34:1573-1582,(2009年6月)	Local angiotensin II-generation in human gastric cancer: Correlation with tumor progression through the activation of ERK1/2, NF-kB and survivin	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
ANTICANCER RESEARCH 29:2189-2194, (2009年6月)	Expression of Eras oncogene in gastric carcinoma	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
Endocrine Journal 56(3):495-502,2009-6	Cushing's syndrome by left adrenocortical adenoma synchronously associated with primary aldosteronism by right adrenocortical adenoma:report of a case	小野田尚佳	第1外科 (腫瘍外科)
Journal of Experimental & Clinical Cancer Research 28(83):2009-6	Gemcitabine sensitivity-related mRNA expression in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy of unresectable pancreatic cancer	仲田文造	第1外科 (腫瘍外科)
総合臨床 58(7):1659-1666 2009-7	臨床病理カンファレンス14 劇症肝炎、	天野良亮	第1外科 (腫瘍外科)
日本大腸肛門病学会雑誌 62(7):453-460,2009-7	潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡手術—緊急度別にみた術式選択—	前田清	第1外科 (腫瘍外科)
ヘルス出版32(6):1287-1295 2009-7	特集 手術助手に求められるもの 胃全摘術	平川弘聖	第1外科 (腫瘍外科)
Medical Tribune 2009,7.9 P15	第95回日本消化器病学会 シンポジウム「胃癌と大腸癌の病態比較」報告～ミスマッチ修復遺伝子異常によるMSI～胃・大腸重複がんの共通の発がん経路に	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
Cancer Res 69(17):6987-6994,2009-9	Dual therapeutic efficacy of vinblastine as a unique chemotherapeutic agent capable of inducing dendritic cell maturation	田中浩明	第1外科 (腫瘍外科)

2 論文発表等の実績

Cancer Res 69(17):6978-6986;2009-9	Classification of chemotherapeutic agents based on their differential In vitro effects on dendritic cells	田中浩明	第1外科 (腫瘍外科)
別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズNo.12;224-226;2009-9	消化管症候群(第2版) 下—その他の消化管疾患を含めて—IV 空腸;回腸,盲腸,結腸,直腸,腫瘍 大腸腫瘍 腫瘍様病変 Peutz-Jeghers 症候群	前田清	第1外科 (腫瘍外科)
日本内視鏡外科学会雑誌 14(3);335-338;2009-6	手術手技 簡単かつ迅速な内視鏡下体内結紮法	平川弘聖	第1外科 (腫瘍外科)
International Journal of Oncology 35:997-1003;2009	Epigenetic regulation of the embryonic oncogene Eras in gastric cancer cells	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
Oncology Reports 22:1021-1025;2009-6	Vitamin D receptor expression is associated with colon cancer in ulcerative colitis	田中浩明	第1外科 (腫瘍外科)
British Journal of cancer 101:1100-1106;2009-9	Effects of VEGFR-3 phosphorylation inhibitor on lymph node metastasis in an orthotopic diffuse-type gastric carcinoma model	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
British Journal of Cancer 101:1365-1373;2009-9	Direct cancer-stromal interaction increases fibroblast proliferation and enhances invasive properties of scirrhous-type gastric carcinoma cells	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
Cancer Sci 100(8):1397-1402;2009-8	Cancer stem cell-like SP cells have a high adhesion ability to the peritoneum in gastric carcinoma	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
International Journal of Molecular Medicine 24:733-741;2009-8	Diagnosis of parathyroid carcinoma using immunohistochemical staining against hTERT	小野田尚佳	第1外科 (腫瘍外科)
総合臨床 58(10);2178-2187;2009-10	臨床カンファレンス17 炎症性腸疾患—潰瘍性大腸炎を中心として	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
臨床外科 64(11):14-17;2009-10	特集 できる!縫合・吻合 I.縫合・吻合法の基本 縫合糸、針付き縫合糸、縫合材料の種類と使い分け	六車一哉	第1外科 (腫瘍外科)
臨床外科 64(11):172-173;2009-10	特集 できる!縫合・吻合 III.部位(術式)別の縫合・吻合法 3.胃 十二指腸切開部の手縫いによる縫合閉鎖	澤田鉄二	第1外科 (腫瘍外科)
臨床外科 64(11):146-149;2009-10	特集 できる!縫合・吻合 III.部位(術式)別の縫合・吻合法 3.胃 噴門側胃切除後の手縫いによる食道-胃吻合	久保尚士	第1外科 (腫瘍外科)
Cancer Science 101(2):468-473;2010-2	In vitro and in vivo evidence that a combination of lapanitib plus S-1 is a promising treatment for pancreatic cancer	仲田文造	第1外科 (腫瘍外科)
Atlas Genet Cytogenet Oncol Haematol 2009-11	DSG2(desmoglein2)	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
手術 63(12):1833-1836;2009-11	手術手技 我々の作製したロングクランプ 鉗子を用いた腹腔鏡補助下低位前方切除術 — 容易で確実な直腸クランプ、洗浄 —	前田清	第1外科 (腫瘍外科)
癌と化学療法 36(12):1969-1971;2009-11	PSKとTGF- β 阻害剤の併用による癌宿主の免疫応答増強効果	田中浩明	第1外科 (腫瘍外科)
癌と化学療法 36(12):1997-1999;2009-11	局所進行食道癌に対するS-1/FU/Edaplatin(CDGP)による化学放射線療法	久保尚士	第1外科 (腫瘍外科)
癌と化学療法 36(12):2003-2005;2009-11	大腸癌肝転移症例に対するFOLFOXを中心とした術前化学療法の成績	天野良亮	第1外科 (腫瘍外科)
癌と化学療法 36(12):2309-2311;2009-11	S-1/CDDP/Lentian併用術前化学療法にて切除可能となった局所進行胃癌の1例	平川弘聖	第1外科 (腫瘍外科)

2 論文発表等の実績

癌と化学療法 36(12):2436-2438;2009-11	5-FU/CDGP+放射線併用療法による集学的治療にて長期生存を得たcT4進行食道癌の1例	大平雅一	第1外科 (腫瘍外科)
癌と化学療法 36(12):2451-2453;2009-11	集学的治療が奏功し長期間CRを維持している腹部大動脈周囲リンパ節転移を伴った進行食道癌の1例	久保尚士	第1外科 (腫瘍外科)
臨床雑誌「外科」 71(13):1533-1538;2009-12	特集:炎症性腸疾患 — 最近の動向 II 潰瘍性大腸炎 2. 潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下手術	前田清	第1外科 (腫瘍外科)
Cancer Science 100(12):2402-2410;2009-12	Synergistic antiproliferative effect of mTOR inhibitors in combination with 5-fluorouracil in scirrhous gastric cancer	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
International Journal of Molecular Medicine 24(6):829-835;2009-12	Dislocation of Rab13 and vasodilator-stimulated phosphoprotein in inactive colon epithelium in patients with Crohn's disease	平川弘聖	第1外科 (腫瘍外科)
総合臨床58(12):2545-2554; 2009-12	臨床病理カンファレンス19 乳癌	高島勉	第1外科 (腫瘍外科)
日本臨床外科学会雑誌 70(12):3490-3494;2009-12	大腸癌待機手術における機械的腸管前処置の必要性の検討	野田英児	第1外科 (腫瘍外科)
Cancer Science 100(7):1243-1247;2009-7	HER2 overexpression correlates with survival after curative resection of pancreatic cancer	仲田文造	第1外科 (腫瘍外科)
臨床雑誌「外科」 71(8):805-809;2009-8	特集:知っておくべき消化管手術の再建法 2. 噴門側胃切除術後の再建法	六軍一哉	第1外科 (腫瘍外科)
Cancer Science 別冊なしの為ページ不明;2009-9	Reduction of 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase expression is an independent predictor of poor survival associated with enhanced cell proliferation in gastric adenocarcinoma	澤田鉄二	第1外科 (腫瘍外科)
別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 11:480-483;2009-7	消化管症候群(第2版)上 — その他の消化管疾患を含めて— II 胃 食道胃接合部癌	田中浩明	第1外科 (腫瘍外科)
臨床雑誌「外科」71(9):983-986; 2009-9	乳腺扁平上皮癌の1例	高島勉	第1外科 (腫瘍外科)
STOMA 17(1):15-16;2010-1	ストーマサイトマーキングを実施した患者はストーマ外来に継続できているか?	前田清	第1外科 (腫瘍外科)
日本臨床外科学会雑誌 71(1): 150-153;2010-1	膀胱癌術後結腸転移を認めた1例	野田英児	第1外科 (腫瘍外科)
EUROPEAN JOURNAL OF CANCER 46:995-1005; (2010年2月)	Hypoxia upregulates adhesion ability to peritoneum through a transforming growth factor- β -dependent mechanism in diffuse-type gastric cancer cells	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
British Journal of Cancer 102(5): 844-851; (2010年2月)	Inhibitory effect of a TGF β receptor type-I inhibitor, Ki26894, on invasiveness of scirrhous gastric cancer cells	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
British Journal of Cancer 102(5): 898-907; (2010年2月)	Establishment and characterization of a new hypoxia-resistant cancer cell line, OCU-M-12/Hypo, derived from a scirrhous gastric carcinoma	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
International Journal of Cancer 126:1004-1016; (2010年2月)	Synergistic antitumor effects of FGFR2 inhibitor with 5-fluorouracil on scirrhous gastric carcinoma	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
ANTICANCER RESEARCH 30: 915-922; (2010年3月)	Establishment and Characterization of Multidrug-resistant Gastric Cancer Cell Lines	八代正和	第1外科 (腫瘍外科)
Journal of Experimental & Clinical Cancer Research:29(15);(2010年 2月)	Plasma pharmacokinetics after combined therapy of gemcitabine and oral S-1 for unresectable pancreatic cancer	仲田文造	第1外科 (腫瘍外科)

2 論文発表等の実績

外科治療 102:130(556)-133(559);2010	マスタールしておきたい 縫合・吻合法の実際—より安全・確実に行うために— 縫合・吻合法の実際—胃全摘後の再建術—食道回腸吻合	六車一哉	第1外科 (腫瘍外科)
Biotherapy 24(2):111-116;2010-3	腫瘍に対する免疫療法を試み—MUCA-DC療法— MUC5ACのHLA-A0201拘束性エピトープペプチドの同定	田中浩明	第1外科 (腫瘍外科)
Ann Thorac Cardiovasc Surg 15(3), 174-77 (2009年6月)	Squamous cell carcinoma presenting as a solitary growing cyst in lung: a diagnostic pitfall in daily clinical practice	西山典利	呼吸器外科
Ann Thorac Surgery 88(2):647-8 (2009年8月)	Primary pulmonary meningioma presenting with hemoptysis on exertion	西山典利	呼吸器外科
総合臨床 58(8), 1855-1863 (2009年5月)	特発性間質性肺炎とその類似疾患	西山典利	呼吸器外科
Clinical Journal of Gastroenterology 2(2),65-70(2009年4月)	Prevention of cancer recurrence after treatment for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma by interferon therapy	久保正二	肝胆膵外科
American Journal of Surgery 198(2),199-202(2009年8月)	Outcome of hepatic resection for hepatolithiasis	上西崇弘	肝胆膵外科
Clinical Journal of Gastroenterology 3(1),45-49(2010年2月)	A case of intrahepatic cholangiocarcinoma detected after successful interferon therapy for chronic hepatitis C	久保正二	肝胆膵外科
外科71(4),387-393(2009年4月)	C型肝炎由来肝細胞癌治療後の再発予防について	久保正二	肝胆膵外科
消化器外科32(5),847-853(2009年4月)	転移性肝癌—治療の実際—	久保正二	肝胆膵外科
日本外科感染症学会雑誌6(2),105-109(2009年4月)	肝切除症例における手術時手指消毒法の変更と手術部位感染	久保正二	肝胆膵外科
臨床外科64(7),893-899(2009年7月)	C型肝炎関連肝細胞癌治療におけるインターフェロン治療の臨床的意義	久保正二	肝胆膵外科
日本気管食道科学会会報 60(2)115-117 (2009年2月)	微細解剖に沿った胸腔鏡下食道癌根治術	李榮柱	肝胆膵外科
胸部外科 62(5)351-352 (2009年5月)	食道癌根治術と分離肺換気チューブの選択—討論1—	大杉治司	肝胆膵外科
手術 63(6)713-720 (2009年5月)	胸部食道癌根治手術 鏡視下手術	大杉治司	肝胆膵外科
胸部外科 62(12)1048 (2009年5月)	食道再建のコツ	大杉治司	肝胆膵外科
手術63(13)1889-1894 (2009年12月)	食道内視鏡外科手術—上縦隔郭清手技—	大杉治司	肝胆膵外科
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 10(3), 555-560 (2010年3月)	Closed cardiopulmonary bypass circuits suppress thrombin generation during coronary artery bypass grafting.	末廣茂文	心臓血管外科
The Japanese Society for Artificial Organs 12, 226-231 (2009年4月)	Impact of non-di-(2-ethylhexyl)phthalate cardiopulmonary bypass tubes on inflammatory cytokines and coagulation-fibrinolysis systems during cardiopulmonary bypass.	末廣茂文	心臓血管外科
胸部外科62(11), 995-999 (2009年10月)	Svensson法による大動脈基部置換術の64列MDCTを用いた遠隔期評価	佐々木 康之	心臓血管外科
Annals of Vascular Disease 2(1), 58-61 (2009年1月)	Successful surgical treatment for rupture of an iliac artery aneurysm into ureter.	平居 秀和	心臓血管外科

2 論文発表等の実績

Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery10(2), 476-477 (2010年2月)	Intraoperative fluorescence imaging during surgery for coronary artery fistula.	細野 光治	心臓血管外科
Interventional Neuroradiology (2009年4月15日)	Anomalous Origin of the Anterior Choroidal Artery	西尾 明正	脳神経外科
Journal of Neurosurgery (2009年6月)	Memory outcome following transsylvian selective amygdalohippocampectomy in 62 patients with hippocampal sclerosis	森野道晴	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica (2009年6月)	Intratumoral Hemorrhage of Spinal Schwannoma of the Cauda Equina Manifesting as Acute Paraparesis -Case Report-	一之瀬 努	脳神経外科
Neurosurgical Review (2009年10月)	Trans-cerebellomedullary fissure approach with special reference to lateral route	大畑建治	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica (2009年7月)	New pull-through technique using the superficial temporal artery for transbrachial carotid artery stenting. -Technical Case report-	三橋 豊	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica (2009年10月)	Primary Squamous Cell Carcinoma of the Frontal Sinus Treated With En Bloc Resection -Case Report-	一之瀬 努	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica (2009年10月)	Primary Epidural Peripheral Primitive Neuroectodermal Tumor of the Thoracic Spine -Case Report-	高見俊宏	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica (2009年12月)	Usefulness of Intravascular Ultrasonography Monitoring of Coil Embolization for Traumatic Direct Carotid-Cavernous Fistula -Case Report-	西尾 明正	脳神経外科
Journal of Neurosurgery (2009年11月)	Dural arteriovenous fistulas draining into the petrosal vein or bridging vein of the medulla: possible homologs of spinal dural arteriovenous fistulas	三橋 豊	脳神経外科
Neuroimage (2010年1月)	Quantitative imaging of spontaneous neuromagnetic activity for assessing cerebral ischemia using sLORETA-qm.	坂本真一	脳神経外科 (現放射線科)
Neurologia medico-chirurgica (2010年1月)	Central Neurocytoma Presenting With Massive Hemorrhage Leading to Coma -Case Report-	寺川雄三	脳神経外科
J Cell Physiol. 2010 (in press)	Articular cartilage repair with autologous bone marrow mesenchymal cells.	中村博亮	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg. 2010 (in press)	Evaluation of clinical problems associated with bone metastases from carcinoma from unknown primary sites.	中村博亮	整形外科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2010 (in press)	Sagittal alignment of the lower extremity while standing in female.	中村博亮	整形外科
J Spinal Disorder and Technique. 2010 (in press)	Risk factor analysis for motor deficit and delayed recovery associated with L4/5 lumbar disc herniation	中村博亮	整形外科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2010 (in press)	The risk of notching the anterior femoral cortex with the use of navigation systems in total knee arthroplasty	中村博亮	整形外科
J Orthop Sci. 15:92-6, 2010 (Jan.)	Incidence of complications associated with spinal endoscopic surgery: nationwide survey in 2007 by the Committee on Spinal Endoscopic Surgical Skill Qualification of Japanese Orthopaedic Association.	中村博亮	整形外科
Clin Orthop Relat Res. 467:3206-12, 2009(Dec.)	Successful spinal fusion by E. coli-derived BMP-2-adsorbed porous beta-TCP granules: a pilot study.	中村博亮	整形外科
Eur Spine J. 18:1279-86, 2009 (Sep.)	Factors affecting neurological deficits and intractable back pain in patients with insufficient bone union following osteoporotic vertebral fracture.	中村博亮	整形外科
J Bone Miner Metab. 28:157-64, 2009 (Mar.)	Antitumor necrotic factor agent promotes BMP-2-induced ectopic bone formation.	中村博亮	整形外科

2 論文発表等の実績

J Pediatr Orthop B. 18:1-5, 2009 (Jan.)	Comparison of clinical outcome after treatment of hip arthritis caused by MRSA with that caused by non-MRSA in infants	中村博亮	整形外科
Spine 34:2179-84, 2009 (Sep.)	Quality of life in patients treated surgically for scoliosis: longer than sixteen-year follow-up.	中村博亮	整形外科
Spine 34:2198-204, 2009 (Sep.)	Low back pain in patients treated surgically for scoliosis: longer than sixteen-year follow-up	中村博亮	整形外科
Spine 34:2874-9, 2009 (Dec.)	Recovery process following cervical laminoplasty in patients with cervical compression myelopathy: prospective cohort study.	中村博亮	整形外科
日本移植学会雑誌 (特別号)229-231 (2009年10月)	44 (2009年10月) V. これからの10年 3. 移植医療の発展と医療経済学 2) 慢性腎不全医療における腎移植	仲谷達也	泌尿器科
泌尿器外科 23(1)45-50 (2010年1月)	BPH/LUTS患者における初期治療としてのエビプロスタットRの有効性	川嶋秀紀	泌尿器科
Biomed Pharmacother. 64(2):113-117 (2010年2月)	Thyroid blood flow as a useful predictor of relapse of Graves' disease after normal delivery in patients with Graves' disease.	石河 修	産婦人科
J Obstet Gynaecol Res. 35(5):850-854 (2009年10月)	Uterine artery flow velocity waveforms during uterine contractions: differences between oxytocin-induced contractions and spontaneous labor contractions.	安井 智代	産婦人科
Eur J Gynaecol Oncol. 30(5):583-585 (2009年10月)	Pharmacokinetics of paclitaxel and carboplatin in a hemodialysis patient with advanced ovarian cancer.	吉田裕之	産婦人科
Oncol Rep. 22(4):725-731 (2009年10月)	A scoring system for histopathologic and immunohistochemical evaluations of uterine leiomyosarcomas.	市村友幸	産婦人科
J Obstet Gynaecol Res. 35(4):717-724 (2009年8月)	Ratio of directly necrotized volume to total volume of a submucosal myoma predicts shrinkage after microwave endometrial ablation.	石河 修	産婦人科
Pediatr Allergy Immunol. 20(3):234-241 (2009年5月)	Breastfeeding and atopic eczema in Japanese infants: The Osaka Maternal and Child Health Study.	石河 修	産婦人科
産婦人科の進歩62巻1号 Page27-29 (2010年2月)	当院での卵巣粘液性腺癌の治療成績	角 俊幸	産婦人科
産婦人科の進歩61巻3号 Page264-265 (2009年8月)	当科における緩和ケアチームによる婦人科腫瘍患者への関わり	本田謙一	産婦人科
産婦人科手術 20号 Page49-54 (2009年6月)	骨盤底からのアプローチ 当院における従来法を主体とした骨盤臓器脱手術の治療成績	角 俊幸	産婦人科
産婦人科の進歩61巻2号 Page114-116 (2009年5月)	当院における誘発・促進の分娩の現状	延山 裕之	産婦人科
血液診療6巻2号 Page67-70 (2009年5月)	子宮頸部原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例	角 俊幸	産婦人科
Osaka City Medical Journal Vol.55 P19-27 (2009年6月)	Comparison of Fundus Autofluorescence of Age-related Macular Degeneration between a Fundus Camera and a Confocal Scanning Laser Ophthalmoscope	山本 学	視覚病態学
J Plast Reconstr Aesthet Surg 2009; 62: e184-186. (6月)	A malar flap incisional approach for sentinel lymph-node biopsy in patients with periocular skin malignancies.	元村尚嗣	形成外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg 2009; 62: e506-508. (10月)	The use of test skin grafting in pemphigus vegetans.	元村尚嗣	形成外科

2 論文発表等の実績

J Plast Reconstr Aesthet Surg 2010; 63: 22-27. (1月)	Rectangular mucosal flap with artificial dermis grafting for vermilion deformity in cleft lips.	若見暁樹	形成外科
J Inv Dermatol 2010; 130: 1624-1635.(3月)	Dynamic relation of focal contacts and hemidesmosome protein complexes in live cell.	小澤俊幸	形成外科
PEPARS(全日本病院出版会) 2009:25:90-95.(7月)	小児熱傷・特殊損傷必須ガイド. 小児の精神的・心理社会的支援.	原田輝一	形成外科
Skin Cancer 2009: 24; 112-116. (6月)	上口唇部microcystic adnexal carcinomaに対する治療経験.	元村尚嗣	形成外科
日本形成外科学会誌 2010;30:32-35.(1月)	頬部巨大莓状血管腫に両側もやもや病を併発したPHACE症候群の1例.	大江恵	形成外科
Skin Cancer 2010;24:403-408. (12月)	皮弁術か植皮術か. 頭部悪性腫瘍切除後再建における私の方法について.	元村尚嗣	形成外科
救急医学 2010;34:451-454. (12月)	熱傷治療ガイド2010. 局所療法. 植皮術.	坂本道治	形成外科
日本放射線技術学会雑誌 2009 年7月	救急CT画像のCADシステムに関する研究班報告書	溝端康光	救急部
J Trauma 2010 年3月	Anterior and posterior ischemic optic neuropathy related to massive fluid resuscitation after blunt trauma	山村 仁	救急部
Clinical Cancer Research (2009年4月)	Molecular detection of lymph node metastases in breast cancer patients: Results of a multi-center trial using the one-step nucleic acid amplification (OSNA) assay	若狭 研一	病理部
Endocrine Journal (2009年6月)	Cushings syndrome by left adenocortical adenoma synchronously associated with primary aldosteronism by right adenocortical adenoma: report of a case	若狭研一	病理部
Pathology International (2009年8月)	Secondary aortoduodenal fistula caused on the suture line of the wrapping	若狭研一	病理部
Cancer Science (2009年7月)	HER2 overexpression correlates with survival after curative resection of pancreatic cancer	若狭研一	病理部
World Journal of Gastroenterology (2009年9月)	Sclerosing epithelioid fibrosarcoma of the liver infiltrating the inferior vena cava	若狭研一	病理部
International Journal of Molecular Medicine (2009年12月)	Diagnosis of parathyroid carcinoma using immunohistochemical staining against hTERT	若狭研一	病理部
International Journal of Clinical Oncology (2009年10月)	Successful outcome after resection of liver metastasis arising from an extraadrenal retroperitoneal paraganglioma that appeared 9 years after surgical excision of the primary lesion	若狭研一	病理部
Arch of Histopathol Differential Diagnosis (2009年12月)	Solitary fibrous tumor of anterior mediastinum	若狭 研一	病理部
Journal of Experimental & Clinical Cancer Research (2009年8月)	Impact of relative dose intensity (RDI) in CHOP combined with rituximab (R-CHOP) on survival in diffuse large B-cell lymphoma	大澤 政彦	病理部
Neurologia Medico-Chirurgica (2009年11月)	Primary epidural peripheral primitive neuroectodermal tumor of the thoracic spine	大澤 政彦	病理部

小計19

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 原 充 弘
管理担当者氏名	庶務課長 川 上 悟

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		経営企画課 薬 剤 部	診療録・エックス線写真・看護記録等については医療情報部で、処方せんについては薬剤部で保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課		
	高度の医療の実績	医事運営課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課		
	高度の医療の研修の実績	庶務課		
	閲覧実績			
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬剤部		
	項規 第一 第一 号に 掲げ る十 一 体第一 項各 号の 及び 状況 第九 条の 二十三 第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		庶務課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		庶務課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		庶務課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		庶務課		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		庶務課		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		庶務課		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		庶務課		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		庶務課		

(様式第12)

		保 管 場 所	管 理 方 法
病 院 の 管 運 及 び 諸 記 録 営 営 営	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況	院 内 感 染 対 策 の た め の 指 針 の 策 定 状 況	庶 務 課
		院 内 感 染 対 策 の た め の 委 員 会 の 開 催 状 況	庶 務 課
		従 業 者 に 対 す る 院 内 感 染 対 策 の た め の 研 修 の 実 施 状 況	庶 務 課
		感 染 症 の 発 生 状 況 の 報 告 そ の 他 の 院 内 感 染 対 策 の 推 進 を 目 的 と し た 改 善 の た め の 方 策 の 実 施 状 況	庶 務 課
		医 薬 品 の 使 用 に 係 る 安 全 な 管 理 の た め の 責 任 者 の 配 置 状 況	薬 剤 部
		従 業 者 に 対 す る 医 薬 品 の 安 全 使 用 の た め の 研 修 の 実 施 状 況	薬 剤 部
		医 薬 品 の 安 全 使 用 の た め の 業 務 に 関 す る 手 順 書 の 作 成 及 び 当 該 手 順 書 に 基 づ く 業 務 の 実 施 状 況	薬 剤 部
		医 薬 品 の 安 全 使 用 の た め に 必 要 と な る 情 報 の 収 集 そ の 他 の 医 薬 品 の 安 全 使 用 を 目 的 と し た 改 善 の た め の 方 策 の 実 施 状 況	薬 剤 部
		医 療 機 器 の 安 全 使 用 の た め の 責 任 者 の 配 置 状 況	臨 床 工 学 部
		従 業 者 に 対 す る 医 療 機 器 の 安 全 使 用 の た め の 研 修 の 実 施 状 況	臨 床 工 学 部
		医 療 機 器 の 保 守 点 検 に 関 す る 計 画 の 策 定 及 び 保 守 点 検 の 実 施 状 況	臨 床 工 学 部
		医 療 機 器 の 安 全 使 用 の た め に 必 要 と な る 情 報 の 収 集 そ の 他 の 医 療 機 器 の 安 全 使 用 を 目 的 と し た 改 善 の た め の 方 策 の 実 施 状 況	臨 床 工 学 部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 原 充 弘
閲覧担当者氏名	庶務課長 川 上 悟
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	82.7 %	算定期間	平成21年4月1日 ~ 平成22年3月31日
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数	21,290人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,878人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	700人	
	D: 初診の患者の数	30,309人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 <p>平成16年12月に改正した「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理に関して、安全管理上の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○用語の定義・公表基準 ○組織及び体制 ○院内報告制度 ○安全管理に関する教育・研修 ○医療事故発生時の対応 ○医療事故の調査を事故防止対策 ○医療安全相談窓口 <p>さらに、平成18年4月の改定で、独立行政法人化に伴う規程整備に加え、安全管理対策室の拡充、オンラインシステムについて定め、平成19年3月には主に公表基準の改定、平成21年5月の改訂では全体の文言の整合性を図った。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院内の安全管理対策の検討及び推進に関すること ○安全管理等の情報に関すること ○医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること ○その他、安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 26 回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員を対象とした講演会等の実施（7回） ○部署別事例研修の開催（1回） ○新規採用の医師、看護師及び研修医に対し、安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催（13回） ○医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催（3回） ○厚生労働省推薦教材DVD研修（1回） ○全従業者を対象としたAED講習会の開催（1回） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p> <p>報告されたレポートについては、定期的にはリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あて詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。</p> <p>また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p>	

(様式第13-2)

一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員： 専任 (10) 名 兼任 (7) 名 医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を室長・統括安全管理者とする安全管理対策室を設け、専任医師 (1 名) 専任安全管理者 2 名 (看護師、薬剤師各 1 名) を中心として、各部署より選出されたリスクマネージャー (7 9 名) とともに、様々な角度から調査・分析・検討を行い、部門横断的な安全管理対策を実施している。 平成 1 8 年 4 月の地方独立法人移行に伴い、安全管理対策室に専任の感染・褥瘡管理者も加え、また安全管理対策室長を補佐するため、室長代理 (2 名) 及び顧問 (4 名) を任命した。また平成 2 0 年 4 月より専任医師、平成 2 2 年 4 月より専任の院内感染対策担当も加え、体制強化を図っている。 活動の主な内容： ○安全管理対策の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、安全管理対策協議会等の会議を定期的で開催し、医療安全対策の推進を図る。 ○医療安全対策に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に関する意識の高揚を図る。 ○安全管理対策室に送信されたインシデントレポートについて、定期的に関係者等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。 ○様々な課題について、安全管理対策室内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策規程」において、感染症の予防及び感染症の患者に対する必要な措置を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策指針」で感染対策の推進を行うための基本的事項を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の分類等 ・ 組織及び体制 ・ 感染対策に関する教育・研修 ・ 感染発生の報告 ・ 感染発生時の対応 ・ 感染の調査とその対策 ・ 指針の閲覧 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の感染に関する予防と処置に関すること ・ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正 ・ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る。実施後、検証し見直しを行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 41 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用者に対する研修 ・ 全教職員を対象とした講演会の実施 ・ 医師、看護師、医療技術職員等、外来ボランティア、ナースエイド、清掃・洗濯委託業者を対象とした研修 ・ 感染対策マネージャー研修 ・ DVD研修 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所（大阪府知事・大阪市長）及び院内感染防止対策委員長あて届出用紙を提出する。専任感染管理者は必要な部門（病院長、院内感染防止対策委員会など）へ報告する。 ・ 院内感染防止対策委員会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。 ・ 感染情報の解析と管理 ・ 院内感染症のサーベイランス ・ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計 ・ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告 ・ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導 	

(様式第13-2)

- ・診療現場の現状把握と感染防止に関する指導
- ・従業者への感染防止対策に関する教育と啓発
- ・感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂
- ・職業感染防止対策の実施
- ・ファシリティーマネジメント（施設管理）への関与

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①新規採用者研修（医師、看護師、医療技術職員など対象：H21年度12回実施） 医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点に関する研修会を開催 ②医薬品安全使用に関する講演会「転倒と薬剤について」（教職員対象 H21年度 1回実施） ③麻薬配薬時の手順の周知徹底について（看護師長対象 H21年度 1回実施） ④ディプリバンキット投与時のシリンジポンプ取り扱い安全講習（医師、看護師、医療技 ⑤処方せんの書き方（臨床研究医対象 H21年度 1回実施） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 ((有) ・ 無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①内用・外用薬処方の方法、取扱い ②注射薬の取扱い ③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、筋弛緩薬注射剤、特定生物由来製品、特定抗菌薬、定数配置しているハイリスク薬など） ④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制） ⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程） ⑥服薬指導・与薬 <p style="margin-left: 40px;">定期的に病棟、診療科を巡回し、実施状況の確認を行なっている。 (病棟：月1回、診療科：年4回実施)</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①医薬品安全性情報報告が提出された場合、電子カルテの掲示板等に掲示することで医薬品安全使用の周知徹底を図った。 ②麻薬事故に対して取り扱いのマニュアル改訂と師長会での周知徹底を図った。 ③安全管理対策室と共同し、糖尿病薬の処方オーダー時の表示を「D 薬品名」から「糖) 薬品名」に変更した。 ④安全管理対策室と共同し、薬品使用時におけるフィルター、PVCフリーに関して、処方せん・病棟指示票へ印字し注意喚起を行った。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1~2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・シリンジポンプ・輸液ポンプについて使用者に対する定期研修を実施した。また、新機種に更新された人工呼吸器・補助循環装置についても使用者に対して新規導入時の研修を実施した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置、除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・その他(10品目以上)の医療機器について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、院内に周知すべき内容については、院内医療機器安全性情報及び院内Webでの情報配信を行っている。同時に、安全管理対策室と連携を取りながら対応策についても実施している。 2. 製造メーカー等から提供される回収(改修)情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い、これらの情報を関連部署に提供すると同時に改善についての方策を検討している。 3. 院内で発生した医療機器に関するインシデント報告について、安全管理対策室から情報を受け、院内に周知すべき重要性の高い内容については、臨時の医療機器安全使用研修会を開催し院内周知に努めている。 4. 中央管理機器について、製造メーカーから提供される修理不能機器、老朽化が著しい機器、安全性確保が困難な機器の更新計画を策定し、医療機器委員会を通じて計画的な更新を実施している。 5. 新規購入医療機器の添付文書と取扱い説明書を臨床工学部でファイリングを行い、使用者から使用方法等の質問があった場合、これらの添付文書を参照しながら正しい使用方法を啓蒙している。 	